

小泉八雲の名作 短編を朗読GENの語りで魅せる

耳なし芳一

小説の名手 浅田次郎のおしゃれなラブ・コメディ

佳人

2008年12月13日(土)14時開演(13時半開場)

枚方サンテラザ生涯学習市民センター5階視聴覚室

2009年 第7回定期公演のお知らせ

2009年7月25日(土)・26日(日)

一心寺シアター倶楽 演目未定

ぜひ新しい朗読GENをご覧ください。
詳細はホームページでもお知らせします。
<http://book.geocities.jp/roudokugekidangen/>

お問合せ 秋山 0742 48 - 8688
akikan@m4.kcn.ne.jp

★耳なし芳一 あらすじ

700年あまり昔、平家と源氏の争いの最後の合戦が行われた下関海峡の壇ノ浦では、今でも妙なことが一杯見聞される。生き霊が夜半、船を沈めようとしたり、泳いでいる人を水中に引きずり込みようとしたり……。そこでこれらの死者を鎮めるために阿弥陀寺が建てられた。その寺の住職に招かれて寺に住むようになったのが、芳一といふ盲目の琵琶法師であった。

ある夏の夜、住職が法事に呼ばれた後、芳一が縁で涼んでいると、甲冑に身を包んだ武士が訪ねてきて、「主君がそなたの琵琶を聞きたいと仰せなので、一緒にまいれ」と恐ろしい声で言う。武士の命にぞむくわけにもいかず、芳一はその後に従ってかけ、なんとも大きな館に入った。さて、芳一が連れて行かれた先はいつたい……………。

～ 作者紹介 ～

小泉八雲 (↑850～1904)
本名ラファディオ・ハーン、ギリシャ生まれのイギリス人。のち日本に帰化。アイランド、フランスに育ち、20才の時アメリカに渡り、職業を転々としながら、文学修行、新聞記者となる。やがて日本に関心をもち、「ハバースマンズリー」特派員として日本を訪れる。時に明治23年4月。直ちに「ハバース」は辞任し、松江の中学校、師範学校の英語教師となり、旧藩士の娘 小泉セツと結婚。日本文化の探求に向かうようになる。明治24年から3年間、熊本第5高等学校の教壇に立ち、明治27年から2年間、神戸の英字新聞「クワラル」の記者生活を送る。この間九州、中国、四国、近畿などを旅行し、「知られざる日本の面影」「東方から」をアメリカで出版。明治29年日本に帰化。同じ年東京帝大講師として英文学を担当する。

★佳人 あらすじ

商社に勤める新一は、妻和江と共に都内のマンションを売って郊外の一戸建てに引っ越した。それといつのも70歳になった新一の母を引き取るためである。

元旦の午後、山梨からやって来た母はいつものように見合い写真を取り出し、「誰かいい人いないかね」と息子に言う。しかし和江は気に入らないが、結局、新一は母に押し切られ、見合い相手として部下の吉岡を推薦することになる。

38歳でギリシャ彫刻のような男前の吉岡は女子社員に大もてなのだが、なぜか振り向きもしない。

さて、翌二日の朝、吉岡は颯爽とやってくるが……………。

～ 作者紹介 ～

浅田次郎 (↑951～)
東京生まれ。13才の時「小説ジュニア」に小説を初投稿。以後高校生

キャスト

★耳なし芳一

芳一 …… 秋山多佳
武士 …… 清水光恵
老女 …… 垣内浩子
寺男 …… 太田淑子
 木村幸子
和尚 …… 田中章恵

★佳人

新一 …… 山岡くみ子
母 …… 辻本由美
和江 …… 福嶋左知子
吉岡 …… 田中章恵

現代文学をも含む欧米文学の鑑賞・批評を中心とする個性的・文学的な講義は学生達に大きな影響を与え、明治36年辞職の際は留任運動が起こった。翌年東京専門学校講師となり「怪談」を発表したが、狭心症のため急逝。明治初期の外国人教師の一人として、日本および日本人の真髄の全体的な研究・理解・紹介を目指した最初の外国人として、その功績は大きい。

スタッフ

構成演出 …… 秋山多佳
音響 …… 山本弘子
協力 …… 久米裕喜代
 田中仁美

【平家琵琶】

平家物語を語る時に「クワラリン」「ジャン」「テン」「ツン」「シャン」「トン」と鳴らします



時代から、大學1浪の後、三島由紀夫の死を探求するために入隊した陸上自衛隊時代を含め30才過ぎまで群像文学界 新潮 文芸・すばるなどの新人賞に応募するもことごとく没となる。87年36才で自衛隊の裏は天国か」が文壇デビューのきっかけとなる。95年「地下鉄に乗って」で吉川英治文学新人賞、97年「鉄道員」で直木賞を受賞後、大ブレイク。パフエイに富んだ作風で読者を魅了し続けている。00年「王生義士伝」で柴田錬三郎賞を受賞した。樺山課長の7日間、本作品が収録されている「薔薇盗人」、映画 舞台化された憑神」など多数の著書がある。